

新金線を活用した新たな交通システム整備構想骨子(案)

1 目的・整備方針

区内を南北につなぐ交通ネットワークの構築は、地域の交通利便性を大きく向上させるとともに、沿線地域における都市機能の創出や人の流れが生み出す地域の活性化など、将来にわたる区の持続的な発展に寄与する重要な取組となります。

区ではこれまで、新金線の資源を活用した新たな交通ネットワークの構築に向け、新金線旅客化検討委員会などにおいて検討を進めてきました。

今後は、これまでの検討を踏まえ、新小岩、金町、高砂といった拠点をつなぐ地域交通ネットワークとして、**新金線の複線用地に専用道を整備する新たな交通システムの構築**を目指していくこととします。

また、金町駅付近や国道6号との交差点等の課題を踏まえ、課題解決までの間、北側区間は一般道路を走行する**段階的な整備について優先的に検討を進め、早期実現に向けて取り組んでいきます。**

2 目指す交通システム像

新たな交通ネットワークとして将来にわたってまちの価値を高め、地域の発展へ寄与する持続可能な交通機関となるよう、定時性・速達性の確保に向けた専用道の整備、高頻度の運行、シンボル性のある駅施設や車両、運行管理システムの導入などにより、誰もが快適に利用しやすい新たな交通システムの構築を目指していきます。

南北の新たな基幹交通としての輸送力

- ・南北の基幹交通として多くの人に利用されるよう、需要に対応する輸送力を備えた連節車両を導入
- ・通勤通学や買い物など地域の身近な交通手段として利用できる、高頻度の運行計画
ピーク時：10本/時 オフピーク時：6本/時（現時点での想定）

定時性・速達性に優れ、安心して利用できる

- ・定時性、速達性に優れ、安心して利用することができるよう、専用道を整備
- ・駅施設での事前料金収受や複数ドアによる乗降など、スムーズな運行ができる仕組みを導入
- ・定時性、速達性向上に向けた更なる検討

誰もが快適に利用しやすい

- ・歩行空間から駅、駅から車両へスムーズに移動できる誰もが利用しやすい施設
- ・運行情報案内システムによるわかりやすい利用案内と快適な待合空間
- ・他の交通モードとも連携した利便性の高い交通ネットワーク

まちの新たなシンボルへ

- ・まちの新たなシンボルとして、将来にわたって地域に愛される先進的で魅力あるデザイン

環境にやさしい交通機関・新たな技術の導入

- ・環境にやさしい次世代公共交通機関として、クリーンエネルギーを動力とした車両を導入
- ・自動運転技術など新たな技術の導入を検討

3 整備・運行手法

整備にあたっては、区が専用道や駅、車両などを整備・保有し、民間又は第三セクターが運行や管理を担う「**公設型上下分離方式の採用**」を前提とし、検討を進めていきます。

4 今後の取組

今後は、本構想に基づき、**事業化計画の策定に着手**し、早期実現を目指して取組を進めていきます。

※事業化計画においては、走行空間、駅、設備等の具体的な施設計画や運行計画のほか、運営体制や資金計画、開業に向けたスケジュール等を整理していきます。